



会場の仙台国際センター ©Aobayama Consortium

結—地域と共に未来へ

9、10日 仙台国際センターで開催

第55回日本薬剤師会学術大会(大会運営委員長・山田卓郎宮城県薬剤師会会長)が9、10の両日、仙台市の仙台国際センターで開催される。現地開催とウェブ配信によるハイブリッド方式で開催し、現地開催は2年ぶりとなる。宮城での学術大会は東日本大震災の影響で中止となった第44回学術大会から11年後の念願となる。震災復興を身近に感じる一大イベントになりそうだ。

2011年3月11日の東日本大震災で宮城県内は甚大な被害を受け、宮城県薬剤師も多く被災した。その年の学術大会開催地となっていたが、日薬は会員の生活再建を最優先し、やむなく大会中止を決定した。

震災から11年が経ち、念願の宮城大会開催となった。山田運営委員長は、「11年前の学術大会でできなかった東日本大震災からの復興をメインに据え、現地を見てもらうような学術大会にしたいと考えた。当時6000人近い薬剤師が宮城に支援に来ていたのだから、支障はなかった。薬剤師には復興を遂げている宮城の姿を

第II集

第55回 日本薬剤師会 学術大会

主な内容

山本日薬会長に聞く	4
山田大会運営委員長に聞く	5
日薬賞受賞者の横顔	6~7
分科会の見どころ・聞きどころ	8~10、15~17
〈グラビア〉	
東日本大震災から11年 宮城県薬の取り組み	11~14
話題の調剤支援システム	18~22

見ていただきたい」と語る。今大会のテーマは「結(ゆい)―地域と共に未来へ」に設定した。全国から宮城に駆けつけた支援薬剤師の活躍により、災害医療における薬剤師の重要性が認識されるようになった。

うになり、東日本大震災の経験を通じて、これまで関係性があまりない人たちや異なる職種、地域の人たちとのつながりや、そこから生まれる強い結びつきを得ることができた。薬剤師と行政、多職種、地域住民がチームとなって地域の未来を創り上げていく結束の思いを表現した。

また、2日目の午前には日薬の山本信夫会長による会長講演を企画しているほか、薬学生シンポ

ワードとの考えを示している。特別講演は、田上祐輔氏(医療法人社団やまと理事長)が「おかえりモネから学ぶこれからの地域医療」平塚真弘氏(東北大学大学院薬学研究所准教授/東北大学東北メデイカル・メガバンク機構)が「一般住民バイオバンクを活用したファーマコゲノミクス研究と個別化薬物療法への応用」、井上彰氏(東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野教授)が「診断時からの緩和ケア」における薬剤師の役割を講演する。

【主催】日本薬剤師会、宮城県薬剤師会
【会期】9日(日)、10日(月・祝)
【大会ホームページ】<https://site2.convention.co.jp/jpa55/index.html>

患者さんとの絆をつなぐ

重篤な疾患と共に生きる患者さんとそのご家族が、笑顔を取り戻し、人生の喜びを感じていただくことがユーシービージャパンの願いです。私たちは患者さんを全ての中心に据えて、ニューロロジーと免疫・炎症領域に力を注いでいます。患者さんに鼓舞されて、最先端の科学、革新的な医薬品、実用的なソリューションをさらに一歩進めます。



Inspired by patients. Driven by science.

ユーシービージャパン株式会社

JP-N-OT-2200015

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>